



幼保小だより

幼小連携・接続推進コーディネーター 小瀬知里(扇山小学校)

幼小連携・接続推進協議会の経過

8月21日に第1回幼小連携・接続推進協議会を開催しました。以前より、北海道幼児教育推進センターから「富良野市の取組を見たい」とのお声をいただいていたので、連携協議会当日にお招きしました。

北海道幼児教育推進センターからは、松浦氏と土山氏が来市され、これまでの経過、成果と課題をお伝えしました。

次に、各部会で話し合った内容を掲載します。

スタートカリキュラム部会

検討内容	スタカリハンドブックの内容について
意見	<ul style="list-style-type: none"> ○「だれもが1年担任ができる」内容となっているか <ul style="list-style-type: none"> ・内容はよい。 ・単元一覧を見やすく。 (必要な項目だが、読みたくなるデザインに) ・スタカリの日案を3日目までではなく、4週間分あるとありがたい。 ・幼児教育施設の意見を取り入れているのがよい。
次回へ向けて	<ul style="list-style-type: none"> ○幼児教育施設のアプローチカリキュラムも必要。 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校がそろっているなら、各園の特色を残しながら幼児教育施設も基本をそろえた方がよい。 1月末に校正したものを提案し、修正を加え最終版とする。2月には印刷し、ハンドブックとデータを市内全小学校と幼児教育施設へ配付する。

引継部会

検討内容	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員間の交流を深める方法 ○幼小連携を継続していくための方法 ○教育委員会主催による幼小合同研修会について
意見	<ul style="list-style-type: none"> ○研修会よりも授業を見合うことが1番、理解に繋がる。 <ul style="list-style-type: none"> ・2週間など期間を設けて、その期間はいつでも自由に幼稚園や保育所、小学校へ行ったり来たりできるようにしてはどうか。(見学&授業記録用紙に感想を記入) ○おたよりの交換や幼小交流などは、教育委員会を介さず、各学校単位で継続していくことが必要。
次回へ向けて	1月に、次年度以降も幼小連携を継続していくための方法を話し合います。

○授業を見合う期間について

- ・昨年度、提携幼稚園と保育所に依頼し、富良野小学校への授業見学を実施しました。幼児教育施設の先生からは、(R1「幼小連携だより」5号)「特別支援教育は見る機会がないので、とても参考になった」「伝え合う授業が多く、幼稚園でも言葉による伝え合いをもっと取り入れていきたいと感じました」「生活科で辞典を教室内に用意したり、教室前面の掲示を減らしたりする環境の工夫を、保育所でも取り入れてみます」との感想をいただきました。授業の交流は、学びのつながりを実感する1番の方法です。実は、「2月に1度、授業公開期間を設けることを進めていましたが、今回は厳しそうです。何か別の内容を考えてみます。

○幼児教育推進センターの松浦氏より

- ・富良野市だから、充実したよい話し合いができていますのだと感じます。このようなざっくばらんな話し合いは、他地域ではなかなかできません。本日、富良野市を視察することができ、有意義な時間を過ごすことができました。



